

the people

元気なまちには 元気な主張を続け
元気に行動する 市民がいる

新型コロナウイルスの影響で… メモリアルライトアップ2020in広野 規模縮小で実施

東日本大震災から丸9年となる3月11日に合わせる形で、3月8日にみんなで育てたコットンをみんなで糸に紡ぎ、コットンランプシェードを作り自然エネルギーで灯すイベントを広野町の防災緑地で開催を企画し、実施しました。ライトアップの点灯式は8日に行い、11日まで毎晩点灯をするという形でした。しかし、このイベントに合わせて実施することを計画していた、「まちなか&エコロジカルマルシェ」は新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得なくなってしまいました。マルシェの中で計画していた人形浄瑠璃遣い手の勘緑さんを中心に活動している「木偶舎」の皆さんの公演についても、出演者の一部を変更して点灯式の中で小規模に行っていただく形になってしまいました。(復興庁「心の復興事業」)

時節柄致し方ない措置とはいえ、残念な結果となってしまいました。楽しみにしてくださっていた皆さんには申し訳ありませんでした。



▲ライトアップ点灯式(規模縮小)の様子▲

台風19号被災地応援公演は小川町諏訪神社にて

「木偶舎」の公演は、8日もう一か所でも予定されていました。会場は、台風19号の被災地となってしまういわき市小川町。夏井川の氾濫の痕も痛々しい小川地区の小川公民館で町民の方々を応援しようと計画され、併せてNPO法人災害支援団GORILLAの皆さんの炊き出しも行うことが組み込まれていました。しかし、こちらも新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止せざるを得なくなりました。そこで、せっかくおいで下さる木偶舎の方々のパフォーマンスを是非見せていただきたいと、代わりに企画したのが小川町諏訪神社の境内での奉納公演でした。新型コ



▲小川町諏訪神社での人形浄瑠による奉納璃公演様子▲

the people (NPO法人ザ・ピープル)
令和2年(2020年)3月号

発行:特定非営利活動法人 ザ・ピープル

代表者:吉田 恵美子

所在地:〒971-8168 福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6

TEL:0246-52-2511 FAX:0246-92-4298

URL:<http://npo-thepeople.com/>

E-mail:the-people@email.plala.or.jp
onahama.volunteer@gmail.com



コロナウイルスの一日も早い終息と、台風被災地の一日も早い復興を祈念しての公演となりました。(「れんげ国際ボランティア会」の支援事業)

枝垂桜の名所として知られる諏訪神社。まだ吹く風は冷たく、桜のつぼみは固いままでしたが、この公演が桜の木にパワーを注いでくれたことで、きっと花の盛りには素晴らしい景色をこの町の皆さんに見せてくれることでしょう。

中平マリコさんのチャリティコンサート開催

歌手の中平マリコさんは東日本大震災で被災した皆さんを自らの歌で励ましたいと、震災の翌年から岩手・宮城・福島の仮設住宅や福祉施設などを訪れチャリティコンサートを開催してこられ、本会としてもそのお手伝いを続けてきました。昨年10月23日、本会がボランティア活動で何かと応援を頂いている「いわき市地域婦人会連絡協議会」主催で、マリコさんを迎えてコンサートを開催することになっていました。ところが、台風19号で会員の多くが浸水被害を被ったため、直前に中止となり2月19日に延期となりました。そして、これを機に前後連続6日間開催へ。彼女が歌うCGCソング加盟店のマルトさんのご協力もあり、障がい者施設や支援学校など市内7会場で行ったチャリティコンサートを開催することになったのです。

本会では2月20日に津波被害の大きかった豊間地区の公営住宅集会所を会場に、21日には富岡町社会福祉協議会の多目的施設を会場に開催しました。コンサートでは民謡や童謡など1時間に20曲を披露。いわき市が舞台となった「みだれ髪」を歌った時には皆さん涙・涙でした。マリコさんは、18歳でホリプロから歌手デビュー、その直後舞台事故で左肩に大怪我をされ、現在も痛みと戦いながらもブラジルで5ヵ月間、残り半年間は日本各地を巡って活動されています。因みに昨年マリコさんは、ブラジルやパラグアイの日系社会に、日本の歌やブラジルの歌を届ける活動を17年間続けてこられた活動が認められ、2019年度「外務大臣賞」を受賞されています。



▲施設でのチャリティコンサートの様子

※会報ザ・ピープルの今号の編集時期は、台風19号の被災に伴い前号の発行が1月遅れたことから、本来であれば2月に発行することになっていました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、当初計画していた事業の実施がどのようになるか見通しのきかない時期が長く続いたため、会報での事前告知を行うことが難しく、事業実施後の報告記事とさせていただきますという判断を下しました。前号から更に発行時期が遅れたことに対し、お詫び申し上げます。